

2020年度日本体操協会政策方針

「変 革 & チャレンジ」

(はじめに)

昨年のスローガンは「restart (再出発)」でした。東京オリンピックの出場権のかかる大切な年を迎え体操協会全体で再出発したいという思いで活動してまいりました。その結果、男子体操では団体総合で昨年に続き銅メダル獲得。新体操では、44年ぶりの団体総合銀メダル獲得、そして団体種目別ボールでは、史上初の金メダル獲得、フープ・クラブで銀メダル獲得と大変素晴らしい成績を残してくれました。続くように東京オリンピックの会場である有明体操競技場で開催した第 34 回トランポリンの世界選手権大会で、女子の森ひかる選手が、史上初の個人種目での金メダルを獲得し、更に史上初の団体金メダル、そしてシンクロナイズド競技でも金メダル獲得と3冠を獲得する快挙となりました。男子でもシンクロナイズド競技で金メダル獲得とトランポリンでは史上初の4個の金メダル獲得となりました。また有明体操競技場でのこけら落としの大会として開催されたこともあり、大会最終日はチケットが完売する盛況でありました。体操全体としてスローガンどおり再出発が出来たと思います。

国内の大会でも昨年 9 月には、茨城国体にて初めてトランポリン競技が開催されました。これまでの関係各所、全国都道府県協会等の関係者の皆様のご協力、ご支援により開催が出来たことを厚く御礼申し上げます。これも新しいステップの一つとして継続して参りたいと思います。

また、国内のスポーツを取り巻く環境においては、昨年 9 月に開催されたラグビーワールドカップの大成功が非常にインパクトが強く、さらにファンを魅了する素晴らしいプレーを披露してくれたことが日本のスポーツ界の更なる躍進を後押ししたと言えます。その半面スポーツが脚光を浴び、国民の関心が高くなることにより、スポーツ団体への風当たりも強くなっております。昨年には、スポーツ庁制定の「スポーツ団体ガバナンスコード」が中央競技団体向けに出されました。日本体操協会においても、この制定されたガバナンスコードに沿った体制、運営等の見直しも行わなければなりません。まさしく「変 革」が求められており、体操関係者全体が変わらなければなりません。時代にあった指導方法、体制、運営作りの基盤を着々と積み上げて参ります。

今年は東京オリンピックの年で日本体操界にとっても重要な年であります。多くの方が一生に一度の大会を様々な立場で迎えることとなります。各役割を全うし素晴らしい東京オリンピックになるようサポートしたいと思います。また選手は昨年、一昨年の各世界選手権大会にて、東京オリンピックの出場権獲得に続き、日本代表が内定している競技もあります。さらに最後の出場枠争いが5月のアジア選手権大会まで続きます。本番まで出来る限りのことをやり尽くし、不安な材料を消してチャレンジ精神で本番に臨んでもらいたいと思います。

日本体操協会はこの「変 革 & チャレンジ」精神で進んで参ります！

(2019年の成績と反省)

男子体操においては、団体総合にて銅メダルを獲得しましたが、目標の金メダル奪還はなりませんでした。種目別では平行棒で銅メダルを獲得しましたが、いかにロシア、中国と戦えるかが今後の課題となります。昨年から、Dスコアでの世界との差を埋めるべく強化してまいりましたが、さらに高いDスコアでの演技力の向上が望まれます。正確に演技を行える体力も必要で強化していかなければなりません。ベテランの力、若い力の再結集でレベルの高い戦いを期待します。

女子体操においては、団体総合、個人総合、種目別と現状の持てる力は発揮しましたが、目標であったメダル獲得は達成できませんでした。昨年1年、けが人が多かったことも大きく影響しました。団体の出場権は何とか獲得しましたが、課題は沢山ありひとつひとつ詰めていかなければなりません。また種目別でのトップ争いに加わるレベルのEスコア、Dスコアの向上が必須であります。アメリカ、ロシアとの差は大きく開けられているのが現実ですが、今年は美しい、シャープな演技で巻き返しを期待したいと思います。

新体操においては、44年ぶりの団体総合銀メダル獲得、団体種目別ボールで史上初の金メダル獲得、フープ・クラブで銀メダル獲得が出来、大きく目標を達成することが出来ました。ただ、今回の活躍により世界の見る目が変わりました。今度はマークされる立場となり戦わなければなりません。そのプレッシャーを振りきり、思い切った満足いく素晴らしい演技を再び期待します。

女子トランポリンは森ひかる選手が、史上初の個人種目での金メダルを獲得し、続いて史上初の団体金メダル、そしてシンクロナイズドでも2年連続の金メダル獲得と3冠を達成する快挙となりました。また東京オリンピックの出場権も1枠獲得し目標を大きく上回りました。2014年からの強化策の転換を期に、様々な強化を試行錯誤して取り組み、ようやく世界と戦えるところまでできました。ここからがスタートです。更に精進して女子全体のレベル向上を期待します。

男子トランポリンは、東京オリンピック出場権の獲得を目標にしていたのですが、決勝に進出することが出来、見事1枠獲得することが出来ました。またシンクロナイズドでも金メダル獲得という成績を収めました。しかし、個人でのメダルはまたしても獲得できず、優勝争いにも加わる事が出来ませんでした。高難度点で演技点を出せる力の差が成績につながっています。メダル争いが出来るよう関係者の奮起に期待します。

東京オリンピックは待ってくれません！全ての力を注ぎ、現状を真摯に受け止めて、ここから良い準備をして、「変革 & チャレンジ」の精神でNON-STOPでオリンピックを迎え、皆様の期待に応えなければなりません。

—東京オリンピックでの目標—

東京オリンピックの目標は次のとおりです。

男子体操	団体総合金メダル、個人総合 or 種目別で金メダルを含む複数メダル獲得
女子体操	団体総合 or 個人総合 or 種目別でメダル1つ獲得
新体操	団体総合メダル獲得、個人総合入賞
男子トランポリン	個人メダル獲得
女子トランポリン	個人メダル獲得

好成績を上げるようレベルアップして、「変革 & チャレンジ」の精神で全力で戦って参ります。

—2020年国際大会開催について取り組み—

- ・2020 体操ワールドカップ東京大会 個人総合(有明体操競技場) * 東京オリンピック予選大会
開催日 2020年4月4日～5日
- ・2020 体操アジア選手権大会(有明体操競技場) * 東京オリンピック予選大会
開催日 2020年5月2日～5月5日
- ・2020 新体操アジア選手権大会(有明体操競技場) * 東京オリンピック予選大会
開催日 2020年5月8日～5月10日
- ・2020 トランポリンアジア選手権大会(有明体操競技場)
開催日 2020年5月10日

上記は東京オリンピックの最終の出場権獲得の大会となります。

(一般体操)

近年、高齢者への運動促進や認知症予防体操等、高齢者への体操実施対策が更に必要となっており、高齢者施設やデイケア・サービスで、毎日1時間弱の体操指導が実施されています。以前トレーニング器具を導入して高齢者施設でトレーニングを行っていましたが、使用上の問題もあり、結局施設職員による体操指導が主流となっています。しかし、体操指導の専門的な知識も乏しく職員同士が見様見真似で指導しているのが現状です。そこで、高齢者施設で体操を指導している職員の方々を対象とした「高齢者体操指導」を行うこととし、高齢者への運動促進につなげる資格制度化を目指して導入します。これにより体操協会公認指導員の数を増やして参ります。

全国各地で開催している体操フェスティバルも順調に運営されています。以前から、それらの体操フェスティバル開催時に参加者全員で行える体操プログラムを作成してほしいとの要望が多く出ていました。その要望に応え、一昨年より体操作品を試作プログラムとして学校や高齢者施設等でテスト・ケースとして実施し検証を行ってきました。

そして、2019 世界体操祭の「アジアのタベ」で、観客が演目の間に体を動かすプログラムを、「The Taiso」と命名し実施しました。運動内容・音楽ともに大変好評を得ました。

そこで今後、「The Taiso」を体操協会公認の体操作品として、全国の体操協会で開催されている体操フェスティバルや学校・高齢者施設等で実施されるよう普及活動をして参ります。

(アクロ体操)

アクロ体操委員会は、昨年同様に本年度も演技会を実施し、各分野の指導者の方々との結びつきが強くなってきました。アクロ体操の普及・発展のため、各組織と連携を深め、いかにして選手の発掘が出来るか検討した結果、男子新体操との連携も行ってきましたが進展せず、そのため、特性の近いエアロビックとの協力体制をスタートしました。引き続き交流を進めて参ります。

本年度実施したアクロ体操の種目別選手権大会に、トランポリン、タンブリングの関係者とも交流し、競技会、イベント大会への参加や演技会を計画し実施して参ります。幅広い運動の取り組みも行い、新たな競技人口の拡大に向けて様々な競技との連携も含め模索して参ります。海外ではアクロ体操への取り組み導入に年齢別大会や倒立のみのバランス競技を実施し、選手育成を図っており、我々も取り入れて参りたいと思います。

本年度実施した種目別選手権大会では競技内容を細分化したことにより、広く参加者を得ることができ、他競技からの参加もありました。都道府県、国内でもアクロ体操を知らない人が大多数で演技会などの広報活動により、ファンを増やすことが普及と考え、関係者のサポーター登録を検討しています。2020 年度は、上記の取り組みを継続し、アクロ体操に適した人材の発掘に繋げて参ります。

(男子新体操)

男子新体操は昨年掲げた「国体復活！」の目標を、全国の皆様からの支えとご協力のもと達成し、2023年の佐賀国体より復活することが決定いたしました。心より感謝申し上げます。

日本国中が注目する一大イベント、東京オリンピックがいよいよ開催されます。我々、男子新体操もこのスポーツの祭典の盛り上がりの波に乗り、一気に普及を目指して参ります。「国体復活」の結果に奢ることなく、未普及県及び選手少数県への指導者派遣、選手育成により一層の力を注いでいくことを第一の目標として掲げます。

第二に協会の政策として発信された「2023年度以降、JGA主催の全日本選手権大会にてJSPO公認コーチ資格(コーチ3以上)またはJGAが認定する専門科目修了を義務付ける」ことについて若手の指導者、選手の積極的な資格取得に向けた働きかけも行うことといたします。併せて指導者の審判員資格取得にも力を入れ、ルールにより深い理解を現場と共有し発展を目指してまいります。

以上の二点を中心にし、日本が世界に誇れるスポーツとしての質上げを目指すことを本年の政策方針として掲げて参ります。

(パルクール)

パルクール委員会では、FIGの国際大会の動向に沿って取り組んで参りました。本昨年同様ワールドカップシリーズ広島大会がFISEのイベントの中で開催され10万人もの観客動員がされました。また、11月には日本選手権を淡路島で開催することが出来、パルクール競技への浸透が始まりました。

また本年は東京オリンピックの年でスポーツの盛り上がり大きい中、4月には第1回世界パルクール選手権大会が広島市で開催されることになり、続いて7月にはワールドカップシリーズが東京で開催されることになり益々浸透する機会となります。

国内での強化、競技、普及、審判等については、全国代表者会議でも述べさせて頂きましたように、まず国際大会の動向の注視、FIGの情報把握などを中心に行ってきました。アーバンスポーツの評価も世界的にも増してきていることもあり、パルクールへの期待も高くなってきております。委員会としても、その情報から徐々に導入に向けての課題点の整理と整備に動き出しました。今後、会員登録や普及方法等について整備し、次年度を目標に各都道府県協会にもご案内ができるようにと思っております。今後共、パルクールの競技・普及に全力で参りたいと思います。

(組織ガバナンス・コンプライアンス・指導における暴力、セクハラへの対策強化)

協会では「指導における暴力、パワハラ、セクハラ撲滅運動」に取り組み始めて7年目の年をむかえます。問題点の改善と監視する環境づくりが必要なため、独立したコンプライアンス委員会を設立し、問題対策に取り組んで参りました。しかしながら、問題点の多さ、内容の複雑化が顕著にあります。未然に防ぐ対策として実施している全国での暴力、セクハラ等の調査に関しましても温度差があり浸透しておりません。通報の中には初期での解決で十分解決できるものも多くあります。地域での早期対応と指導現場での適切な指導教育も必要になります。未然に防ぐ通報システム作りを地域から徹底していかなければなりません。また、指導者の意識の変革が望まれます。今年度よりスポーツ団体ガバナンスコードの導入により、中央団体のみならず地方団体への導入も開始されます。日本体操協会はこの方針に基づき対応して参ります。

本協会の「3つの基本方針」を実現して暴力・パワハラの撲滅をしなければなりません。

第一に「暴力、パワハラ、セクハラが発生しない地域全体で監視する環境づくり」

第二に「指導における暴力を無くす指導方法の享受」

第三に「永久追放を追加した罰則の強化」

本協会と加盟団体が協力して厳しい姿勢をもって取り組み続けて変革して参りましょう。

(地域委員会)

地域委員会の取り組みとして引き続き『ビジネススクール』『U-12 体操競技会』のさらなる充実に取り組んで参ります。また昨年は、念願のトランポリン競技が茨城国体で開催されました。これは皆様のご理解、ご協力のおかげであります。引き続き選手強化・指導者の育成・審判の育成等を早期にかつ真剣に取り組んでいかななくてはなりません。また男子新体操の国体参加については、全国の関係者と協議しながら、トランポリンを絡めた対策を検討していきます。2年前より取り組んでいる障がい者児童への取り組みも講演を繰り返す中で、関心がいかに高いかを実感しているところで、地域における障がい者児童への普及をさせて参ります。将来的には、国体で実施されている障がい者スポーツ大会への参加、さらには国際大会への参加に繋がればと考えます。

東京オリンピック事前合宿も、出場国が今年には大半が決まることで加速して参ります。このムーブメントにのり、地方でも体操の発展と普及につなげることができるように、日本体操協会・地域委員会が連携を取り対処して参りたいと考えています。

体操日本の将来は全国各地が元気でなければなりません。

まもなく東京オリンピックが開催されます。体操日本の活躍を体操関係者のみならず全国民が大きな期待を寄せています。地域で携わっている私達は体操人としての誇りと自覚を持って体操日本のさらなる発展につながるよう、地域委員会として取り組んでいきたいと考えます。

(国際関連)

国際委員会は、東京オリンピックにむけて FIG、AGU 技術委員間の情報交換を図り、国際大会で活躍する選手・役員をサポートします。

東京オリンピックテストイベントとして、4 月には体操ワールドカップ東京、新体操競技会、5 月にはオリンピック最終予選(体操、新体操)となるアジア選手権が有明体操競技場で開催されます。また、オリンピックソリダリティーとして発展途上国、地域の選手強化を支援しオリンピック出場を目指すため、日本での選手の受け入れ事業が展開されています。その他、海外選手の国内合宿の受け入れや体操を通じた友好活動が行われています。

東京オリンピックでの選手の活躍に貢献するため、国際オリンピック委員会、日本オリンピック委員会、国際体操連盟、アジア体操連合や文部科学省、外務省、スポーツ庁等各省庁との連携を密にして国際活動を展開して参ります。

アジア諸国との協調事業や国際的な貢献活動も増えていますが、スポーツを通じた友好を深め、地域での体操の普及と発展に役立てて参ります。審判委員会と協調して国際審判講習会の国内開催をプランニングし審判育成を促進するとともに、国際的に活動する技術委員の養成を図ります。また、10 月には国際体操連盟役員選挙が行われますが、渡辺守成 FIG 会長の再選をはじめ役員、技術委員長や委員の確保に向けた支援事業を展開し、国際活動の推進を図るとともに、東京オリンピックレガシーをその先に継続してプロモートし体操の発展に努めて参ります。

(むすび)

東京オリンピックまでに各々が今何が出来るか、今何をしておかなければならないかを再確認し、悔いの残らないよう取り組んで参ります。未来のために東京オリンピックでの財産を残して行かなければなりません。

東京オリンピックでの選手の活躍と成功は我々の願いです。そのため我々の今年のスローガンは「変革 & チャレンジ」として、新しい考えで、新しい取り組みで目標に到達していかねばなりません。どうか皆さんの力をお借りして、新しい体操ニッポンを築き上げていきたいと存じます。

以上、2020 年度公益財団法人日本体操協会政策方針を発表いたしました。

皆さん、力を合わせて一緒に頑張りましょう。